

はしの なし

第十稿

響橋ものがたり～幻の東京五輪橋梁～

「はしのはなし」では、皆さんに横浜の橋の歴史や小話を、定期的で紹介していきます。第10回目は、響橋について。

響橋は、幻の東京五輪にもゆかりがあり、土木学会推奨土木遺産にも選出された歴史的・文化的にも価値の高い橋の一つです。

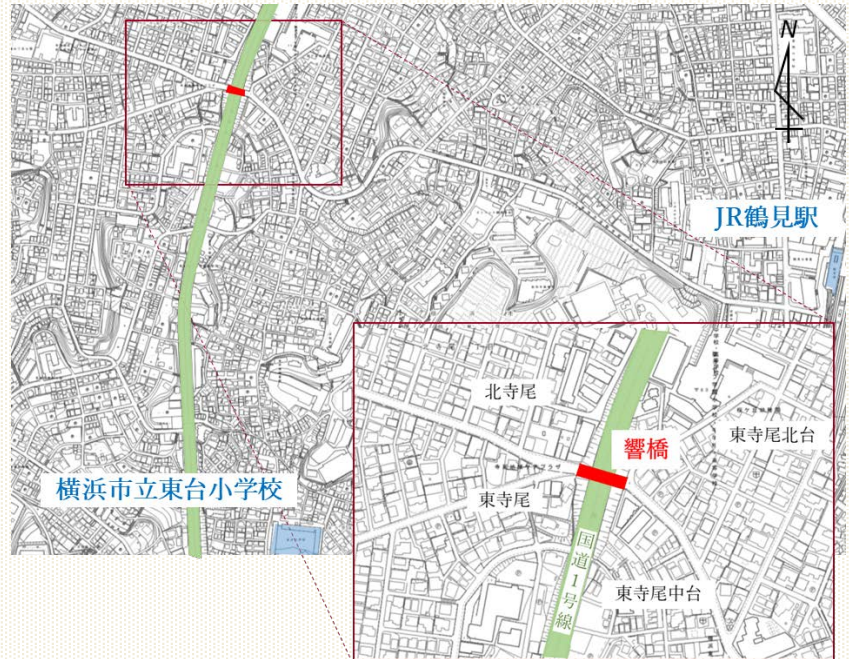
そんな響橋の誕生から、現在までの小話をしていきましょう。

1 響橋はどこにあるのか？

響橋は、右地図のとおり東京から神奈川を走る国道1号を跨道する橋です。今から約80年前の昭和15年(1940)にも東京でオリンピックが開催される予定だったのをご存知でしょうか。昭和16年(1941)に架けられた響橋は、その幻の東京五輪遺構として、歴史的・文化的な価値等が認められ、横浜市歴史的建造物や、かながわの橋100選、土木学会選奨土木遺産に認定されています。

【諸元】

- ・名称：響橋（ひびきはし）
- ・所在：鶴見区
- ・橋長：48.0m
- ・幅員：11.2m
- ・竣工：昭和16年(1941)
- ・橋種：鉄筋コンクリートアーチ橋



響橋の位置図

a



響橋を東京側から望む

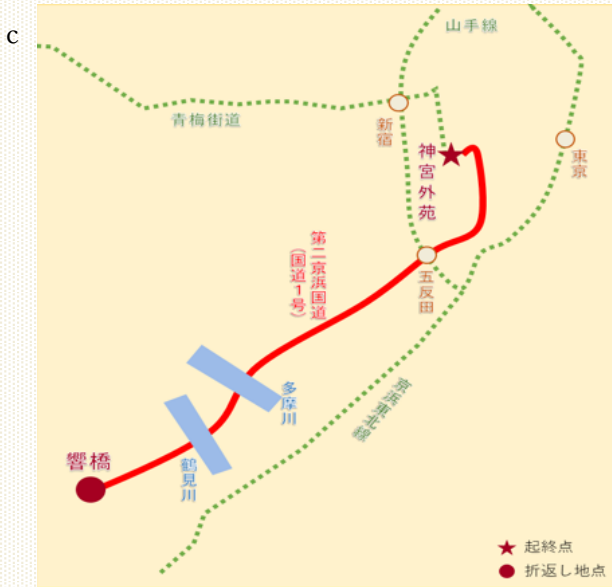
b



響橋を下から望む、見上げると荘厳な佇まいで非常に存在感があります。

2 響橋と幻の東京オリンピック

震災復興が進み、横浜や東京の膨張と京浜工業地帯の発展により、第一京浜国道(現：国道15号)の交通量が限界に達したことで、昭和11年(1936)より第二京浜国道(現；国道1号)の建設が始まりました。昭和12年(1937)より始まった日中戦争から徐々に戦時色が濃厚になっていき、鉄などの資材の用途が制限されていく時代の中、響橋は昭和16年(1941)に第二京浜国道を跨ぐように架けられました。人も物も十分になかった時代でも、繊細な趣向を凝らしたデザインを有する橋が作られたのは、昭和15年(1940)の幻の東京オリンピックが大きく影響しています。



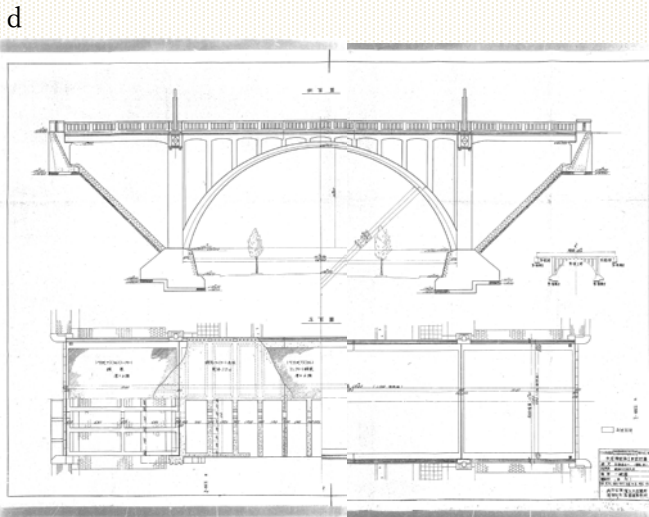
当時のマラソンコース案の略図

オリンピックの花形競技の一つでもあるマラソンにおいて、マラソンコースとして神宮外苑競技場を起終点としたとき、響橋までがおよそ21km(往復42km)あるため、この付近を折り返し地点に想定した計画が立てられました。

折返し地点ともなれば、世界中の参加国のメディアからの注目を浴びる箇所になりますので、日本の国力を世界に紹介する重要な機会と捉えて、高い技術力を用いて、荘厳な存在となるように手掛けました。その後、戦時色の強まりにより開催権を返上したことで、1940年の東京オリンピックは幻のオリンピックとなりましたが、橋は建設が続けられ、建設後約80年たった今も優美な姿を残しています。

3 戦災、復興、そして現在へ、、、

その後の戦争の影響により、市内の橋梁もいくつか被害を受けましたが、この響橋は幸い大きな被害を受けず、当時の姿を残しています。その後も現在に至るまで、ほとんど姿を変えていません。変わった点としては、下を行きかう車の光に誘われるように響橋から飛び降りる事故がいくつも生じたこともあり、今の転落防止の柵が設けられました。これも一つの時代背景なのかもしれません。



昭和13年(1938)の設計図

設計図面を見ると、現在ついている転落防止柵はついていないことがわかる。



昭和25年(1950)の第二京浜国道から望んだ響橋
この当時は転落防止柵がついていないため、地覆上部にある4つの柱が今以上に強調されて見えます。



現在の第二京浜国道から望んだ響橋

4 技術者たちが残したこだわりの意匠

先にも述べたように、東京オリンピックでも重要な存在となることもあり、のちに皇居内の桃華楽堂や地下鉄銀座線(上野-浅草間)や日本26聖人殉教記念施設などの優れた建築物を手掛けた経歴のある、今井兼次氏にそのデザインを依頼し、意匠の凝った橋が設計されました。

一般的にコンクリートのアーチ橋だと重厚で少し圧迫感が出てしまうのだが、全体に軽快かつ陰影に富んだ繊細なデザインが施されており、存在感はあるが圧迫感を与えにくい見た目となっています。これらのこだわりの見えるデザインは、設計者はもちろん、当時戦地に赴く方もいるような状況の中でも建設を続けた多くの技術者たちの努力の結果と言えると思います。

g



床版底部に連続するヴォールト(かまぼこ型の意匠)が施されており、軽快なデザインとなっています。

h



アーチ部には輪郭をつけるモールディング(段差などを表す建築意匠)が施されており、アーチが強調されています。

i



隔壁にはスリットが入っており、コンクリートの重量感を軽減しています。

j



アーチの内輪にもリブを入れており、これもコンクリートの重量感の軽減に寄与しています。

k



アーチの端から高くそびえ立つ様に伸びている柱が、橋にメリハリを持たせています。柱に彫られている模様は寺を示す卍のようにも見えます。

5 「響橋」の名前の由来

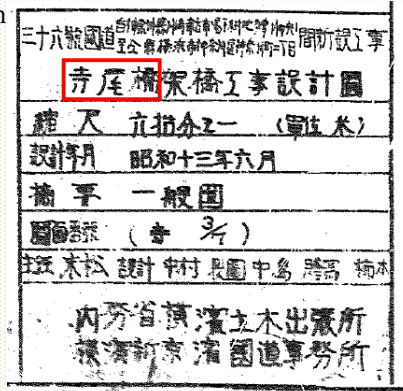
「響橋」の名前の由来は、そのコンクリートのアーチ構造が故、下の国道1号線を通るとき、車の通過する音などが跳ね返り響くように聞こえることから、その名がつけられています。親柱についている銘板にも「響橋」と書いてあることから竣工時点からその名が変わっていないことがわかります。ところで、橋の名前の由来という、最も一般的なものは[第九稿 黄金橋ものがたり]でも紹介したように、その橋が架かっている地名や町名から名を冠する場合があります。実はこの響橋も、その例に倣った名称になっていた可能性もありました。

1



国道1号線から望む。
下を歩くと確かに車の通過音が響いて聞こえる。

m



左は、昭和13年6月の設計図面から抽出したものだ。これによると設計時点では、「響橋」という名称ではなく、地名から名をとった「寺尾橋」という名称が予定されていたことが確認できる。

6 なぜ「めがね橋」と呼ばれているのか

響橋は地元のランドマークとして愛されており、地元では「めがね橋」という愛称で親しまれています。しかし、「めがね橋」とよく称されているのは、2つのアーチにより水面に映ると眼鏡のように見える形状の橋のことで、響橋はアーチが一つしかなく、これには当てはまりません。

n



響橋(めがね橋)を橋の上から望むと、日陰により影が一円となり、遠眼鏡のように見ることがもできる。

o



長崎県にある「眼鏡橋」
お手本のように2つのアーチを描く構造をしている。

p



小田原市にある「めがね橋(馬出門土橋)」
響橋と同様にアーチは一つしかない。

古くは江戸時代から石造アーチ橋のことを、眼鏡橋、太鼓橋、虹橋などと呼んでおりました。一つ例を挙げると、小田原城の堀にある馬出門土橋も「めがね橋」と呼ばれており、これも単一のアーチ橋である。このように昔はアーチを有している橋は単一のアーチでも眼鏡橋と呼んでいたのかもしれませんが。この慣例からコンクリート造のアーチ橋ではありますが、「めがね橋」と呼ばれるようになったのかもしれませんが。また、推測の域を出ませんが、虫眼鏡や単眼鏡、遠眼鏡(今で言う望遠鏡)の”眼鏡”であれば1眼なので、そこから名を冠したという考えもあります。